

エリザベスさんに在留特別許可（ビザ）を求める請願署名

法務大臣 齋藤 健 殿
出入国在留管理庁長官 菊池 浩 殿

請願事項

- ・ オブエザ・エリザベス・アルオリウォさんに在留特別許可を与えて下さい。

請願の趣旨

エリザベスさんはナイジェリア出身の難民認定申請者です。女性性器切除（FGM）の強制から逃れて故国を離れざるを得なかったエリザベスさんは、1991年、24歳で来日しました。長い歳月を、難民と認められる日を待ち望みながら、現在も仮放免という日常生活を厳しく制限される身分で暮らしています。しかし、エリザベスさんはこのような状況下で、入管収容施設の被収容者への差し入れや励まし、外国籍の人々を刑務所に訪ねるなどの支援活動を積極的に行ってきました。こうした活動を讃える日本平和学会平和賞などもエリザベスさんは受賞しています。長年にわたる尊い人道的活動に報いるため、エリザベスさんに「人道配慮に基づく在留特別許可（ビザ）」を与えることを強く求めます。

請願者

名 前	住 所

取り扱い団体（ ）

連絡先・送付先

with Elizabeth（エリザベスとともに）

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-13-3-404 PRAJ 仮放免者の会 気付

withelizabeth@konosekaini.com

第一次締め切り：2023年4月20日

エリザベスさんに在留特別許可（ビザ）を求める請願署名

【支援立ち上げの経緯】

エリザベスさんは東日本入国管理センター、東京入管をはじめとする各地の入管収容施設で、帰国したくてもできない重い事情を抱えて苦悩する被収容者の一人一人の心に寄り添い、励まし続けています。エリザベスさんの献身的な励ましの活動は、2021年1月NHK Eテレのドキュメンタリー『エリザベス この世界に愛を』でも紹介され、大きな反響を呼びました。

私たちは、エリザベスさんを応援する「with Elizabeth（エリザベスとともに）」というグループを2021年の6月に立ち上げました。with Elizabeth というグループ名には苦境にいる多くの人々を励ますエリザベスさんを一人にしない、支援するという思いが込められています。彼女の人柄を更に深く知るにつけ、その勇気と献身的な活動にますます広く支援の輪を広げたいと思うに至りました。

エリザベスさんの一番望むもの、それは在留資格です。エリザベスさんの置かれている仮放免という立場は、じつに非人間的なものです。働くことが許されない、いつ再収容されてしまうかもわからない不安定な境遇です。30年を超える年月そんな過酷な状況に置かれてもなお、苦しむ隣人—外国人のみならず日本人へも一手を差し伸べ続けるエリザベスさんこそ、「人道配慮に基づく在留特別許可」に相応しい人物であると私たちは確信します。

*FGM（Female Genital Mutilation；女性性器切除）とは

女性外性器の一部あるいは全部を切除し、時には切除してから外性器を縫合する慣習。国連機関の発表によれば2023年現在、アフリカをはじめとして世界30カ国以上で2億人以上の女兒・女性がこの慣習の犠牲になっていると推測される。FGM廃絶に立ちあがったアフリカの人々の長年にわたる努力によって、国連機関、各国の国際協力機関でも、FGMは女性への暴力、健康破壊、人権侵害、女兒への悪習であると認識され、廃絶をめざす活動が進められている。

会のHP→

